

日・韓人文振興政策懇談会について

1. 概 要

日本の人文・社会科学の研究者と韓国の経済・人文社会研究会の研究者が、両国の人文・社会科学の現状と課題について意見交換を行う。韓国からの提案を受けて、2004年度に第1回の懇談会を開催。本年度は第8回目の会合。

2. 本年度の開催状況

- ①開催日： 平成23年12月2日（金）
- ②場 所： ロッテホテル 本館36階 ASTOR SUITE（韓国ソウル）
- ③テーマ： リスクマネジメントと人文・社会科学の役割
- ④当日の進行計画（【別紙1】参照）
- ⑤日本側、韓国側の参加者（【別紙2】参照）
- ⑥日・韓人文振興政策懇談会概要（【別紙3】参照）

〔参考〕これまでの開催実績

	日 時	開催国	議 題
第1回	2004年12月2～3日	日本	人文振興政策の現状と課題
第2回	2005年11月25日	韓国	人文振興政策の課題
第3回	2006年11月25日	日本	生命に対する認識
第4回	2007年11月23日	韓国	生命工学発展のための人文学の寄与方案
第5回	2008年11月29日	日本	21世紀知識基盤社会のための日・韓両国の大学改革と人文学振興政策
第6回	2009年11月26日	韓国	日・韓両国の人文学の振興政策の比較
第7回	2010年12月3日	日本	グローバル化と人文学

□ 第8回 日・韓人文振興政策懇談会 当日の進行計画

- 日時・場所：2011.12.2.(金) 09:50~19:30, ソウルロッテホテル アストルーム
- テーマ：リスクマネジメントと人文・社会科学の役割
- 司会：月脚 達彦(東京大学大学院総合文化研究科准教授)
李 元範(東西大学校 日本地域研究科 教授 / 経済・人文社会研究会 人文政策諮問委員)

日程	内容
開会式 9:50~11:00 (70分)	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 開会の辞：李 誠 元(経済・人文社会研究会 人文政策諮問委員会 委員長) ◦ 祝 辞：樺山 紘一(印刷博物館館長, 東京大学名誉教授) ◦ 歓迎の辞：朴 振 根(経済・人文社会研究会理事長) ◦ 挨拶の辞：清水 潔(文部科学省事務次官)
11:00~11:15 (15分)	記念撮影
主題別発表 I 11:15~11:55 (40分)	<p style="text-align: center;">リスクマネジメントと人文・社会科学</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 危険社会から安全社会へ - 李 在 烈(ソウル大学校社会学科 教授) ② 危機管理と人文学 - 高山 博(東京大学大学院人文社会系研究科教授, 文部科学省科学官)
質疑応答 11:55~12:25 (30分)	韓国：金 興 圭(高麗大学校 国語国文学科 教授/人文政策諮問委員会 委員) 日本：金田 章裕(人間文化研究機構長)
12:30~14:00 (90分)	昼 食
主剤別発表 II 14:00~14:40 (40分)	<p style="text-align: center;">事例 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 技術危険と危機管理：原子力イシューを中心に - 金 明 子(GreenKorea21 フォーラム理事長, 前環境部長官) ② 東日本大震災被災者救援・被災地域復興のための人文・社会科学からの提言 - 小林 良彰(日本学術会議副会長, 慶應義塾大学法学部教授)
質疑応答 14:40~15:10 (30分)	韓国：金 南 顯(関東大学校史学科教授/人文政策諮問委員会 委員) 日本：金田 章裕(人間文化研究機構長)
15:10~15:50 (40分)	総合討論
15:50~16:00 (10分)	休 憩
特別セッション 16:00~17:00 (60分)	日・韓人文振興政策懇談会の今後の発展方向について討論
閉会式 17:00~17:10 (10分)	李 誠 元(経済・人文社会研究会 人文政策諮問委員会 委員長) 樺山 紘一(印刷博物館館長, 東京大学名誉教授)
17:10~17:30 (20分)	休 憩
17:30~19:30 (120分)	晩 餐

【日本側参加者】

氏名	現職
樺山 紘一	印刷博物館館長、東京大学名誉教授
金田 章裕	人間文化研究機構長
高山 博	東京大学大学院人文社会系研究科教授、文部科学省科学官
小林 良彰	日本学術会議副会長 慶應義塾大学法学部教授 慶應義塾大学多文化市民意識研究センター長
月脚 達彦	東京大学大学院総合文化研究科准教授
清水 潔	文部科学省事務次官

【韓国側参加者】

氏名	現職
パク ジン グン 朴 振 根	経済・人文社会研究会理事長
パク ヨン グン 朴 英 根	経済・人文社会研究会事務総長
キム ミョン ジャ 金 明 子	Green Korea 21 Forum 理事長、前環境部長官
イ ジェ ヨル 李 在 烈	Seoul大学校社会学科教授
イ ソン ウォン 李 誠 元	ソウル大学校教授、 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会委員長
キム ナム ヒョン 金 南 顯	関東大学校史学科教授 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会委員
キム フン ギュ 金 興 圭	高麗大学校国語国文学科教授 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会委員
イ ウォン ボム 李 元 範	東西大学校日本地域研究科教授 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会委員
キム ブ ニョン 金 復 年	国会政務委員会専門委員 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会委員

日・韓人文振興政策懇談会（第8回）概要

○日程：平成23年12月2日（金）

○テーマ：リスクマネジメントと人文・社会科学の役割

1. 李 誠元（イ ソンウォン 経済・人文社会研究会人文政策諮問委員会 委員長）、樺山 紘一（印刷博物館館長、東京大学名誉教授）及び朴 振根（パク ジングン 経済・人文社会研究会 理事長）による冒頭挨拶の後、清水 潔（文部科学省事務次官）より「東日本大震災とリスクコミュニケーション」についての意見発表があった。

（清水次官の発表要旨）

- ・政府、科学者、国民のトライアングルをつなぐのは、メディアが通常であるが、今回の福島第一原子力発電所の事故の場合は、インターネットによる情報の伝播と不安・懸念の増大が特徴だ。情報が国民の間にどのようなインパクトを与えるか、どう伝わるかということが大切である。放射線モニタリング結果の伝え方についても、的確なリスクコミュニケーション情報を迅速に共有することが大切であり、情報の的確性とは、評価・分析が伴った情報のことであり、それが迅速に公表、提供されて関係者のみならず国民にも共有されることが信頼性につながる。
- ・政策立案の過程で国民の参加を求めながら熟議をしていき、住民の理解と参画・対話につなげていって、社会とのコミュニケーションを取ることが大事だ。

2. 政策審議に携わる日韓両国の研究者より、今回のテーマに関する主題別発表が行われた。

■主題別発表 I

（1）「危険社会から安全社会へ」

イ ジェヨル
李 在烈（ソウル大学校社会学科 教授）

（主な発表事項）

- －圧縮成長期の危険
- －現代社会の危険
- －危険管理と危険ガバナンス

（2）「危機管理と人文学」

高山 博（東京大学大学院人文社会系研究科 教授、文部科学省科学官）

（主な発表事項）

- －危機の想定
- －危機対応

■主題別発表 II

(1) 「技術危険と危機管理：原子カ 이슈を中心に」

キム ミョンジャ

金 明子（グリーンコリア21フォーラム理事長、前環境部長官）

(主な発表事項)

- －技術危険と自然災難
 - ・気候変化
 - ・気候変化対応と原子力
- －原子力産業現況
 - ・社会的世論と原子力政策
- －技術危険と危機管理：原発事故を中心に

(2) 「東日本大震災被災者救援・被災地域復興のための人文・社会科学からの提言」

小林 良彰（日本学術会議副会長、慶応義塾大学法学部教授）

(主な発表事項)

- －緊急提言「東日本大震災被災者救援・被災地域復興のために」平成23年4月5日
日本学術会議東日本大震災対策委員会
- －提言「東日本大震災復興における就業者支援と産業再生支援」平成23年9月21日
日本学術会議東日本大震災対策委員会
第一部3.11以降の新しい日本社会を考える分科会

3. 特別セッションとして、日・韓人文振興政策懇談会の今後の発展方向について討論が行われた。

(日本側の主な意見)

- 少なくとも今年を含めた一両年は、科学技術・学術審議会の下に置かれる人文学及び社会科学の振興に関する委員会で、この懇談会への対応を引き受けて進めていきたい。日本側の政策審議の組織構成は、韓国側とは異なることは理解しているが、両者で共通している部分はある。また両国は、人文・社会科学を振興する上で、似たような問題意識を持っていると思っている。
- 話し合っているテーマは社会に関わるものであるし、もっと開かれた場にしてはどうか、という意見もある。
- 韓国の社会科学も、日本の社会科学も、米国を見ている。韓国と米国、日本と米国は違うが、韓国と日本は似ているところがある。そのため、日韓を比較することには学びがあるし、新しい社会科学の発展につながるだろう。また、日韓で共通する問題もある。例えば、少子化の問題や、労働市場のミスマッチの問題が挙げられる。

(韓国側の主な意見)

- 日韓の共通テーマとしては、学問融合を目指した事業についての政策交流が行われることを希望する。また、人文学及び社会科学の振興に関する委員会の審議事項例 3 点は、韓国の経済・人文社会研究会でも課題としてよく挙げられるものだ。これに追加として、日韓両国の人文資料をデジタル化するなどして共有することが挙げられる。
- 日韓で、課題設定型の学際的研究を行ってはどうか。
- 今後も本懇談会が引き続き行われればよいと考えている。